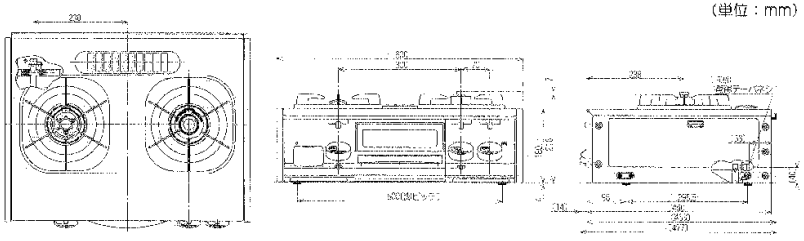
寸法図・仕様

寸法図

図は110-1090型です。110-1091型はチャオバーナーと標準バーナーが左右逆になります。

（単位：mm）



仕様

品名	ガステーブルコンロ	
型番	110-1090型	110-1091型
製品コード	RSU-470CS-L	RSU-470CS-R
型式	RSU-470CS	
点火方式	連続放電点火式	
外形寸法	高さ180mm（トッププレートまで脚除く）×幅600mm×奥行477mm	
質量（概算）	13.0kg	
安全装置	立消え安全装置・天ぷら油過熱防止機能（標準バーナー）・グリル消し忘れタイマー（標準バーナー約2時間、グリル約21分）・グリル水切れセンサー	
電源	DC3.0V（単1形乾電池×2個）	
付属品	単1形乾電池×2個、取扱説明書、保証書、設置工事説明書	

使用ガスの種類		1時間当たりの消費量			
都市ガス		13A			
燃焼方式		強火	中火	弱火	消火時
強火	12A	4.30kW (3,700kcal/h)	2.50kW (2,150kcal/h)	1.71kW (1,470kcal/h)	8.31kW (7,150kcal/h)
	13A	4.65kW (4,000kcal/h)	2.67kW (2,300kcal/h)	1.84kW (1,580kcal/h)	8.90kW (7,650kcal/h)
中火・弱火		4.05kW (0.289kg/h)	2.46kW (0.176kg/h)	1.81kW (0.130kg/h)	8.05kW (0.575kg/h)
付属品		R3/8管用テーパねじ（ペアフリー型ガスレンジとの組み合わせ仕様）、9.5mmφガス用ゴム管（ガス用ゴム管接続の場合）			

機器を廃棄する時のお願い

本機器は乾電池を使用していますので、大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取り外してください。
そのままにしておきますと思わぬ事故になることがあります。

お問い合わせ先

別添　大阪ガスのお問い合わせ先をご参照願います。

⚠危険

ガスくさいときはガス栓を閉め、窓を全開にしてから（火気に注意して）大阪ガスにご連絡ください。

02066765　001

SU-47CS-35A (00)
010400 Ⓢ

ペアフリー型

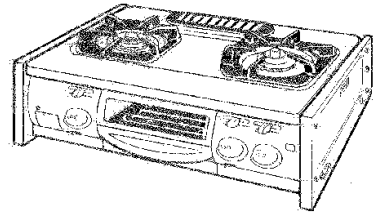
ガステーブルコンロ

110-1090/110-1091型

★この機器には設置工事が必要です。

型式の呼び　RSU-470CS-L
RSU-470CS-R

取扱説明書



もくじ

各部のなまえ・別売部品のご紹介……1
安全上のご注意（必ずお守りください）……2
機器の設置……8
使いかた
点火・火力調節・消火のしかた……11
コンロ……12
グリル……13
使用中に消火したときは……14
お手入れのしかた……15
長期間使用しない場合……17
故障かな？と思ったら……17
アフターサービス・寸法図・仕様……18

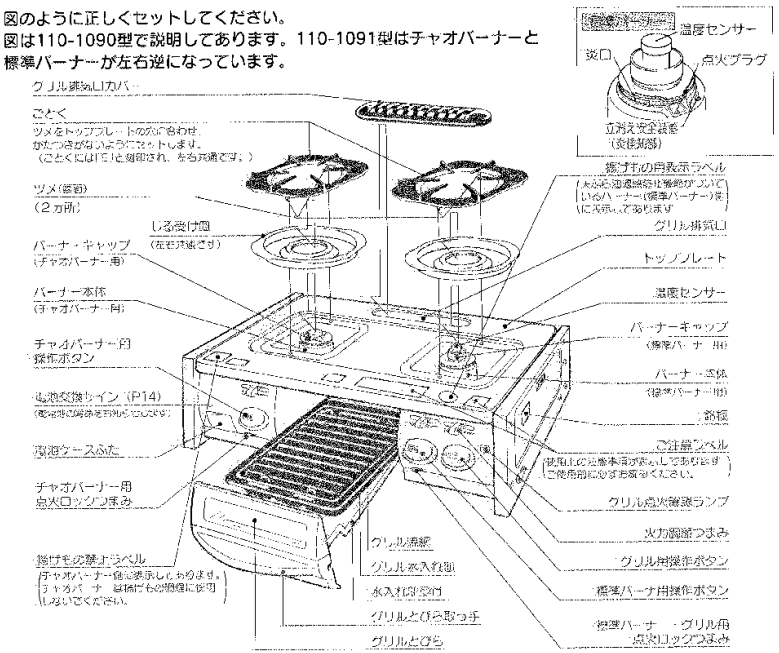
このたびは、大阪ガスのペアフリー型ガステーブルコンロをお求めいただきまして、まことにありがとうございました。

- ご使用の前にこの取扱説明書を最初から最後までお読みいただき、安全に正しくお使いください。
  また付属の保証書も必ずお読みいただき、この取扱説明書とともに大切に保管してください。
- 幼いお子様には、さわらせないでください。
- 本製品は家庭用です。業務用のような使いかたをされますと著しく寿命が縮まります。
- この機器は国内専用です。海外では使用できません。
- 取扱説明書を紛失した場合は、お買い求めの販売店、大阪ガスサービスショップ、または大阪ガスでお求めください。

大阪ガス

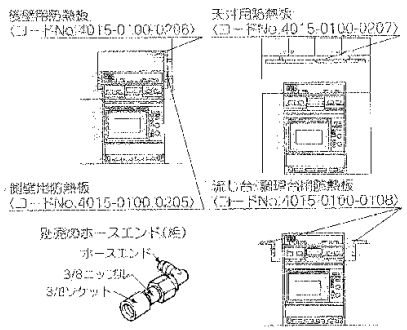
各部のなまえ

・図のように正しくセットしてください。
・図は110-1090型で説明してあります。110-1091型はチャオバーナーと標準バーナーが左右逆になっています。



別売部品のご紹介

● **防熱板**（取り付け方の詳細はP9を参照）
設置場所で、可燃性の壁（ステンレス板など）を張りつけた可燃性の壁も含む）から15cm、上部はトッププレート上面より100cm以上はなして設置できない場合、図のように取り付けて使用してください。



● **ホースエンド（組）**
（コードNO.4015−0100−0130）
（ガス接続には専門の資格・技術が必要ですので、必ずお買い求めの販売店、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガスにお問い合わせください。）
本機器には脚が付いていますので、別売のホースエンド（組）を取り付ければ、一般のガステーブルとして、ガス用ゴム管接続で使用できます。

● **ホースガス栓用プラグ**
（コードNO.081−0450）

● **器具用スリムプラグ**
（コードNO.081−0359）

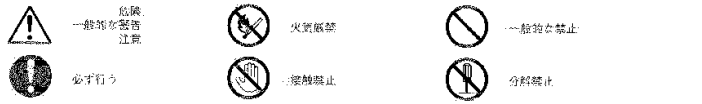
● **ガステーブルコンロ用ガスコード**
（13A用：コードNO.080−0480,080−0580(0.7m)　080−0481,080−0581(1.0m)　080−0482,080−0582(2.0m)）
（LPG用：コードNO.080−0270(0.5m)　080−0271(1.0m)　080−0272(2.0m)）

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

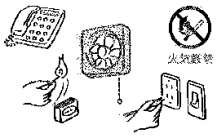
絵表示について次のような意味があります。



特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください。

⚠危険

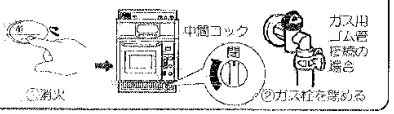
■ガス漏れに気づいたら絶対に火をつけたり、電気器具のスイッチの入・切、電源プラグの抜き差し、周辺の電話を使用しない



炎や火花で引火し、爆発事故を起こすことがあります。

■ガス漏れに気づいたらすぐに使用を中止する

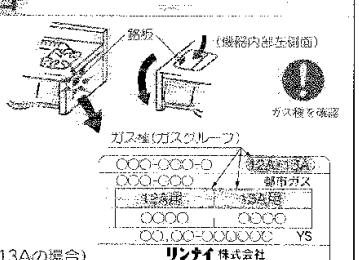
①すぐに使用を中止しガス栓（中間コック）を閉める。（ガス栓つまみのないガスコンセント接続の場合は、ガスコンセントからソケットをはずす）
②窓や戸を開けガスを外へ出す。
③もよりのガス事業者（大阪ガス）に連絡する。



⚠警告

■供給ガスと銘板に表示してあるガス種（ガスグループ）が合っていることを確認する

供給ガスと一致していない場合、そのまま使用すると不完全燃焼により、一酸化炭素中毒になったり、爆発・着火でやけどをすることがあります。供給ガスがわからない場合はお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガスに問い合わせてください。
転居されたときも、供給ガスの種類が銘板の表示と一致していることを確認してください。



（例）（12A・13Aの場合）

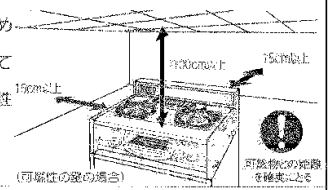
安全上のご注意（必ずお守りください）

⚠警告

■設置するときは可燃物との距離を確実に離す

距離が近いと火災の原因になります。（火災予防条例で定められていますので、必ず守ってください）
可燃物との距離が守れない場合は必ず防熱板を取り付けてください。（P9参照）
また表面がステンレス板やタイルの場合でも内部が可燃性の場合は必ず防熱板を取り付けてください。

■設置後機器の周囲を改装する場合も可燃物との距離を確実に離す

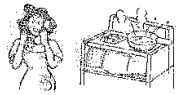


■機器の下に新聞紙やビニールシートなど可燃物を敷かない　また周辺に可燃物を置いたり可燃性のガスを近くで使用しない、置かない

引火して火災・爆発をおこすことがあります。カーテンなど燃えやすいものを近づけたり、ふきん・スプレー缶・ベンジンなどを近くに置かないでください。

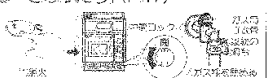
■火をつけたまま、その場を離れたり、就寝・外出をしない

調理中のものが異常過熱し火災の原因となります。とくに揚げもの調理をしているときはその場を離れないでください。離れるときは必ず消火してください。



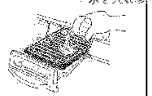
■地震、火災、または使用中に異常を感じたときはすぐに使用を中止する

あわてずに消火しガス栓（中間コック）を閉める。（ガス栓つまみのないガスコンセント接続の場合は、ガスコンセントからソケットをはずす）「故障かな？と思ったら」（P.17）を参照してください。



■グリル水入れ皿には必ず水（約200㎖）を入れ、連続使用の場合などは、たまった脂は取り除き、そのつど水を入れる

水がない場合、魚やたまった脂が過熱されて発火し、グリル排気口より炎が出ることがあります。続けて使用する場合もそのつど脂を取り除き、水を入れてください。なお水以外のものは、入れないでください。

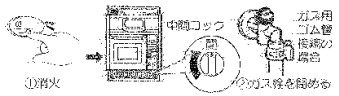


■グリル排気口をふさがない

グリル排気口の上をなべ・アルミはく・ふきんなどでふさぐと異常過熱し、不完全燃焼や火災の原因になります。

■使用後は消火を確認しガス栓（中間コック）を閉める

消し忘れによる火災の原因になります。特にグリルは消し忘れをしやすいので、機器から離れるときは必ず消火を確かめてください。



■ガス接続には専門の資格・技術が必要です

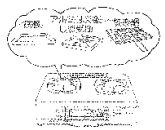
接続工事は必ず有資格者が行ってください。

■お手入れが必要なところ以外は絶対に分解したり修理・改造は行わない

ガス漏れや故障の原因になります。

■指定以外の補助具や大きすぎるなべなどは使わない

コンロをおおうような鉄板や直径34cm以上のなべ、焼き網、たこ焼き器、アルミはく製しる受け皿、省エネごとくなどを使うと異常燃焼し、一酸化炭素中毒の原因となったり、機器の焼損や破損（トッププレートやしる受け皿の変色）の原因となります。また、温度センサーが正しく作動せず発火や消火の原因にもなります。
指定以外の補助具を使用した場合の機器の故障・事故については当社では責任を負いかねます。

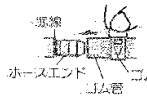


⚠警告

ガス用ゴム管（ソフトコード）接続の場合

■ゴム管はホースエンドおよびガス栓の赤線まで確実に差し込みゴム管止めで止める

ゴム管が抜け、ガス中毒やガス爆発の原因になります。

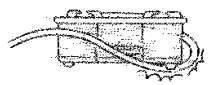


■ガスコードを使用する場合は、器具用スリムプラグおよびガスコードの取扱説明書に従って接続する

間違った接続はガス漏れの原因になります。

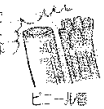
■ゴム管は機器に触れたり、下を通したり、グリル排気口や炎に近づけない　また他の機器で加熱されるような所も避さない

使用時は周囲が高温になりゴム管がとけてガス漏れを起こすことがあります。



■内径9.5mmφのガス用ゴム管（ソフトコード）以外は使わない　ひび割れたゴム管、古いゴム管は使わない

ガス漏れの原因となります。ゴム管はＪＩＳまたは機器合格マークの入ったものを使用してください。ビニール管は絶対に使わないでください。ときどき点検して古くなった場合は取り替えてください。



■ガスコードの長さが合わない為に高温部に触れたり、機器の下を通したり、機器に触れたりする場合はガスコードを使用しない

ガスコードが過熱され、ガス漏れの原因になります。

■ゴム管の継ぎたし、二又分岐はしない

ガス漏れや使用誤りなどで危険な場合があります。

⚠注意

■グリル焼網の上や下にアルミはくを敷かない

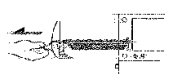
アルミはくの上に脂がたまり発火する原因になります。

■魚の裏返しや取り出し時などは、グリルとびらガラスやグリルとびら上端に触れない

手や腕が触れるとやけどをすることがあります。

■グリル水入れ皿の出し入れはゆっくり確実に

水平にゆっくり出し入れしてください。グリルとびらを持ち上げたまま引き出すと途中で止まらずに落下し、熱湯がこぼれてやけどをすることがあります。



■グリル水入れ皿の中に水のかわりに市販のグリル石・アルミはくなどを入れない

過度した脂が過熱され火災になる恐れがあります。

安全上のご注意（必ずお守りください）

⚠注意

■グリル排気口をのぞきこまない またなべの取っ手をグリル排気口に向けない

グリル使用時はグリル排気口から高温の排気がでます。やけどをしたり、取っ手をこがす原因になります。

■使用中、使用直後にグリルとびらガラスに水をかけない 衝撃を加えない

ガラスが割れてけが、やけどの原因になります。また、とびらが変形したり、開まらなくなります。

■グリル使用時にグリル庫内に食品くずやふきんなどがないことを確認する

食品くずやふきんが燃えることがあります。

確認する

■グリル水入れ皿の持ち運びはていねいに

使用中・使用直後はグリル水入れ皿の水は高温になっています。こぼすとやけどをすることがあります。

ていねいに

■グリル水入れ皿だけを持って本体より取り外さない

グリルとびらが落下し、やけどやけがをすることがあります。必ずグリルとびら取っ手を持って取り外してください。

■コンロ・グリル使用中はバーナー付近や排気口に体の一部や衣服を近づけない

炎が衣服に燃え移ったり、排気熱によりやけどをする原因になります。

■グリルとびらに重いものをのせたり、強い力を加えない

グリルとびらがはずれ、けがの原因になります。

■使用中、使用直後は操作ボタン・つまみ・グリルとびら取っ手以外は触れない

やけどをすることがあります。とくに幼いお子様がいる家庭ではご注意ください。

接触禁止

■棚の下など落下物の危険のある所に機器を設置しない

機器の上に落ちた物が燃え火災の原因になります。

■不安定な場所に設置しない

機器が傾いてなべなどがすべり落ち、やけどやけがをする原因になります。

■衣類の乾燥や練炭の火起しなど調理以外の用途に使用しない

火災や異常過熱による機器破損の原因になります。

■強い風の吹込む場所に機器を設置しない

機器内部の焼損や安全装置が正しく作動しないなどの原因になります。また点火不良の原因にもなります。

■機器本体内部をお手入れする場合、各部品の突起物などの注意する

強く当たった場合、手などにけがをする場合があります。

必ず手袋をしてお手入れする

■ごとくをはずしてなべなどを直接コンロに置いて使用しない

不完全燃焼や機器破損の原因になります。

■車両・船舶では使用しない

使用中に機器が傾いたりして、火災や、やけどをする原因になります。

⚠注意

■点火するときはバーナー付近に顔などを近づけない また、この機器の点火装置以外の方法では点火しない

炎や熱でやけどをする原因になります。

■やかん、なべなどの大きさに合わせて火力を調節する

火力が強いとやかんやなべなどの取っ手が焼損したり、手に触れるとやけどをする原因になります。

なべなどの大きさに合わせ火力調節

■バーナーキャップを水洗いしたときは水気をじゅうぶん切ってからセットする

炎口が詰まったまま使用すると異常燃焼の原因になります。

水気を切る

■しる受け皿はバーナーキャップにのせたり、斜めにしてセットしない

バーナーの炎がしる受け皿の下にもぐり込み火災や機器破損の原因になります。

■使用中は換気をする

一酸化炭素中毒の原因になります。ただし、自然排気式給湯器およびふろ釜を使用している場合は、換気扇を回さないで窓をあけて、換気をしてください。換気扇を回すと排気ガスが逆流することがあります。

換気をする

■トッププレートは確実に取り付ける

バーナーの炎がトッププレートの下にもぐり込み火災や機器破損の原因になります。（機器内部周囲にトッププレートを引掛ける爪があります。取り付けるときはトッププレート手前の両隅を上から軽く押え付け、浮きのないようにしてください。）

トッププレート
正しいセット　特注品　誤ったセットの例

■幼いお子様に触れさせない 使わせない

やけどやけがをする恐れがあります。

天ぷら油過熱防止機能付バーナーについて（標準バーナーのみ）

天ぷら油過熱防止機能とは天ぷら、フライなどの揚げもの調理で、消し忘れなどによる調理油の過熱を防止する機能です。温度センサーでなべ底の温度を監視し、調理油が発火する温度になる前に自動的にガスを止めます。このとき、ブザーが鳴ってお知らせします。
揚げもの調理をされるときは、必ずこの機能のついている標準バーナーを使用してください。
使用方法をお守りいただけなければ、天ぷら油の過熱による発火を防止できないことがあります。

※天ぷら油過熱防止機能がついているバーナーは右図のようにトッププレート上面に（　）の表示ラベルと前面に（揚げもの用）と表示してあります。

標準バーナー
（天ぷら油過熱防止機能付）
温度センサー

⚠注意

■揚げもの調理をされるときは、必ず標準バーナー（天ぷら油過熱防止機能付）を使用する

チャオバーナーを使用すると消し忘れなどにより調理油が発火することがあります。

確認

（図は110-1090型です。110-1091型はチャオバーナーと標準バーナーが左右逆になっています。）

安全上のご注意（必ずお守りください）

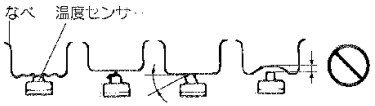
⚠警告

■標準バーナー（天ぷら油過熱防止機能付）で油料理をするときは、耐熱ガラス容器・土なべなど熱が伝わりにくいものは使用しない

天ぷら油過熱防止機能が働かず、調理油が発火することがあります。

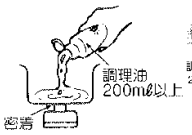
■温度センサーの上面となべ底が密着していないときは使用しない

そのまま使用すると調理油の量に関係なく発火することがあります。



■標準バーナー（天ぷら油過熱防止機能付）で使用する調理油の量は200㎖以上で行う

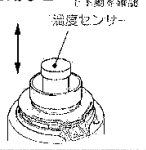
調理油の量がはじめから少なかったり、減ってきたりすると発火することがあります。



⚠注意

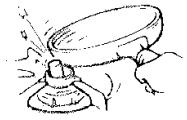
■温度センサーのお手入れはこまめに行う　また上下にスムーズに動くことを確認する

なべ底に密着しなくなり調理油が発火する場合があります。また、動きが悪いとなべなどが焦げ、お湯などがこぼれやけどをする原因にもなります。なべの重さは調理物を含め300g以上必要です。密着しない場合、点検、修理を依頼してください。



■温度センサーに強いショックを加えたりキズをつけない

なべ底にセンサーが密着しなくなり、調理油が発火する場合があります。



■標準バーナー（天ぷら油過熱防止機能付）では、中華なべ補助ごとく（別売）を使用しない

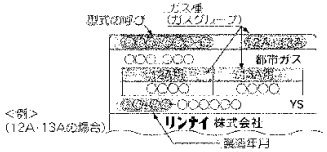
なべ底に温度センサーが密着しなくなり、調理油が発火する場合があります。

- コンロバーナーの上で魚焼き・鉄板焼きなどをすると、トッププレートやしる受け皿の色が変わることがあります。
- なべの種類によっては、傾いたり、すべりやすいものがあります。不安定な状態で使わないでください。中華なべなど底の丸いなべは、必ず取っ手を持ちながら調理してください。
- 煮こぼれをさせると機器を早くいためますので、煮こぼれさせた場合は機器がさめてからできる限り早くふきとってください。
- みそ汁を温めなおすときは火力を弱めにして、よくかき混ぜながら温めてください。強火で急に温めなおすとなべ底に沈んだみそが突然噴き上がり、みそ汁が飛びちったり、なべがはねあがってひっくりかえることがあります。特に、だし入り豆みそ（赤みそなど）に注意してください。

機器の設置

設置前の準備と確認

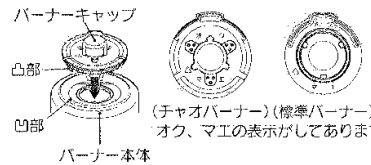
- ●型式の呼び・ガス種・製造年月は、機器右側面及び機器内部左側面の銘板に表示してあります。
- ●機器銘板のガス種（ガスグループ）と供給ガスが合っているか確認します。
- ●輸送のため各部分にあて紙や包装部材がありますので全部取り除いてください。

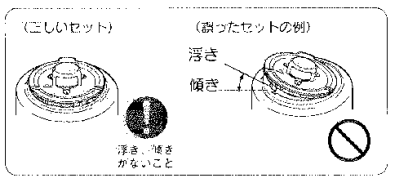


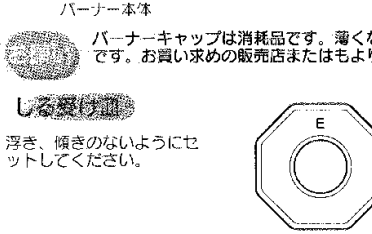
部品の取り付け

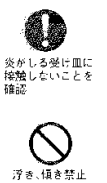
バーナーキャップ

「オク」印を奥側にして、バーナーキャップの凸部をバーナー本体の凹部に正しくはめ込み、必ず正常に燃焼していることを確認する。
※バーナーキャップが浮いたり傾いたりしていると点火不良や炎が不ぞろいになったり異常燃焼などが起こる場合もあります。







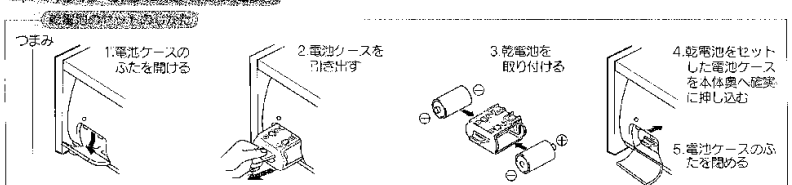


バーナーキャップは消耗品です。薄くなったり変形して炎が不ぞろいになった場合は交換が必要です。お買い求めの販売店またはもよりの大阪ガスへご相談ください。

しる受け皿

浮き、傾きのないようにセットしてください。

単1形乾電池2個（付属品）



電池ケースはコンロ前面の左側にあります。つまみを下げながら引くとふたが開き、ケースが取り出せます。⊕と⊖を確認して、しっかりと乾電池を入れてケースを機器本体に確実に差し込んでください。ケースのふたは、必ず閉めてください。

- 電池ケースに水などの異物が入った場合電池接触不良の原因になりますので、ふきとってきれいにしてください。
- 乾電池の寿命は、乾電池の種類によっても異なりますが、通常約1年を目安としてください。乾電池は必ず2個とも同種類の新品の乾電池をご使用ください。
- 付属の乾電池は工場出荷時に納められたもので自然放電のため寿命が短くなっている場合があります。

機器の設置

設置場所および周囲の防火措置

この機器は、主にペアフリー型ガス高速レンジ・ガスコンビネーションレンジと組み合わせて、一体型ガスレンジとして使用されるため、ガス用ゴム管接続用のホースエンドは付いていません。
・機器の設置、ペアフリー型ガス高速レンジ・ガスコンビネーションレンジとの組み付け、機器をガス用ゴム管接続に変更する等、設置・ガス接続についてはお買い求めの販売店またはもよりの大阪ガスにお問い合わせください

設置場所

●強い風の吹き込まない場所・丈夫で水平な場所

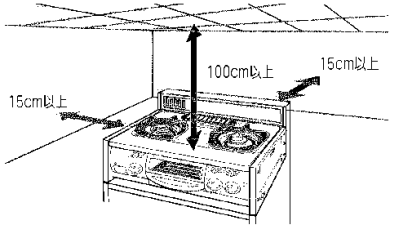
●付近にカーテンなど燃えやすいものがない場所

●機器の上に湯沸し器のない場所

●機器を使用した場合ガス栓が加熱されない場所

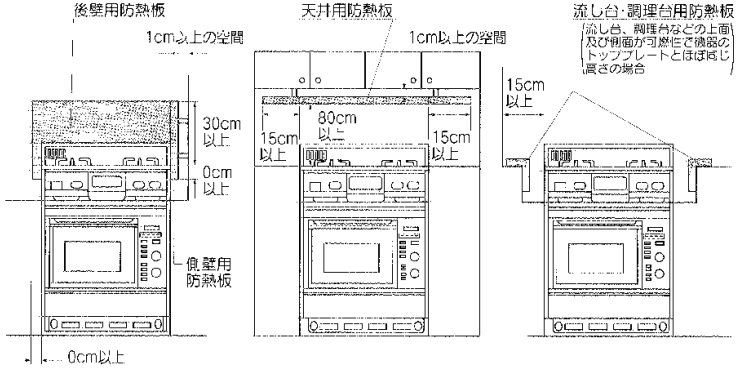
●落下物の危険のない場所

●機器の上に樹脂製の照明器具のない場所



●周囲に可燃物(木製の壁・モルタル、タイル、ステンレスなどを張付けた壁・たななど)のある場合
・トッププレートより上面の側面および後面は15cm以上、上部はトッププレート上面より100cm以上離す。
・上記の距離がとれない場合は壁面に別売の防熱板を取り付けて設置する。

防熱板について

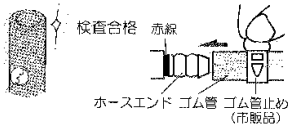


参照
・防熱板(別売品)の部品コードは「別売部品のご紹介」(P.1)を参照してください。
・防熱板についてはお買い求めの販売店またはもよりの大阪ガスにお問い合わせください。
・別売の指定の防熱板を必ずご使用ください。

機器の設置(ガス用ゴム管・ガスコード接続の場合)

ガス用ゴム管(ソフトコード)の接続

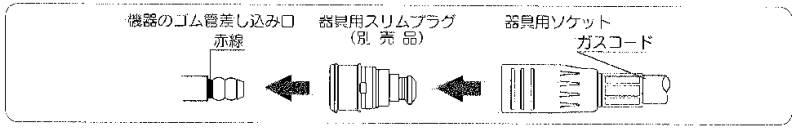
・ゴム管はガス用ゴム管(ソフトコード内径φ9.5mm・JISマーク入り)を用い、折れたりねじれたりしないようにして、できる限り短く(2m以下で適当にゆとりをもたせる)ガス栓と機器のホースエンドとを接続します。このとき ゴム管は赤線までしっかり差し込みゴム管止めで固定してください。また機器に触れないようにして接続します。
・ガス栓を開け、接続部からガスの臭いがしないことを確かめ、ガス栓を閉める。



ガスコードなどでコンセント接続する場合

ガス機器側の接続

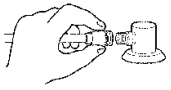
機器のゴム管差し込み口をコンセント化してガスコードでコンセント接続する場合



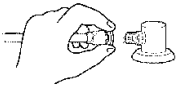
上図のように、必ず別売の器具用スリムプラグを器具用プラグ梱包台紙の裏面に記載してある取扱説明に従って機器のゴム管差し込み口に取付け、次にガスコードの器具用ソケットを器具用スリムプラグに"カチッ"と音がするまで押し込みます。

ガス栓側の接続 (ガス栓がガステーブル用であることを確認してください。)

①ガス栓を開けるとき
コンセント継手を"カチッ"と音がするまで確実に差し込む。



②ガス栓を閉めるとき
コンセント継手のすべりリング(白色)を手前に引く。



●コンセント継手を差し込むとガス栓が開きます。　●コンセント継手がはずれるとガス栓が閉まります。

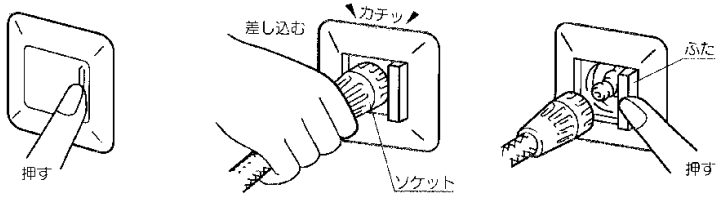
ガスコンセントについて

「ガスコンセント」は、ガスコードなどを取付けると自動的に開栓し、取外すと自動的に閉栓します。

◆ふたを開ける
ふたの右端を押します。

◆取り付ける
"カチッ"と音がするまで差し込みます。

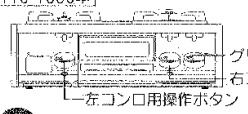
◆取り外す
右端にあるふたを押します。



参照
・ガスコード接続する場合は、ガス栓側がカチットプラグになっていないと接続できません。従来のガス栓でご使用する場合は、別売のホースガス栓用プラグが必要です。

点火・火力調節・消火のしかた

110-1090型

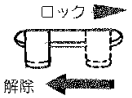


※使用するバーナーの操作ボタンを間違えないでください。
ddと表示してあるのが標準バーナー（天ぷら油過熱防止機能付）用の操作ボタンです。
dddと表示してあるのがチャオバーナー用の操作ボタン、ddddと表示してあるのがグリル用の操作ボタンです。必ず表示を確認してから点火してください。

❶ 準　備

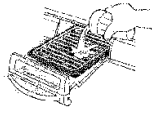
ガス栓（中間コック）を開く。

ガス用ゴム管接続の場合



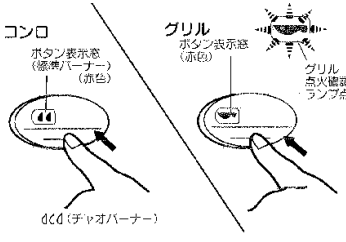
ロックの火印と反対にスライドさせ点火ロックを解除します。

（グリルを使う場合のみ）



グリル水入れ皿に必ず水（約200㎖）を入れる。

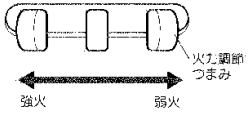
❷ 点　火



●操作ボタンをいっぱいまで押す。
途中で操作ボタンから手を離すと点火しません。
●バーナーへ火移りしたことを確かめてから数秒間（立消え安全装置が働くまで）そのまま押し続ける。
（チャオバーナー、グリルバーナーは標準バーナーに比べ点火に多少時間がかかります。）
・火力調節つまみの位置が「弱」のとき操作ボタンを押すと「強」の方向に移動します。
・点火時は全バーナーとグリルが同時に「パチパチ」と放電する構造ですので異常ではありません。

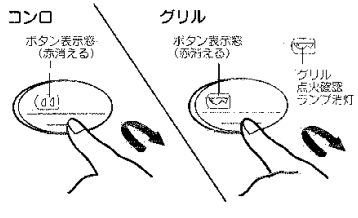
・万一、点火しないときは操作ボタンを一旦消火の状態に戻し、周囲のガスがなくなってから再度点火操作をしてください。

❸ 火力調節



●火力調節つまみを左右にゆっくりスライドさせ火力を調節する。
・（グリル）焼き具合は火力の強・弱、グリル焼網の高低で調節してください。
・（コンロ）チャオバーナーを弱火にした時、バーナーキャップ上面の小さな丸穴から出ている火が消えることがありますが、異常ではありません。また、急激な操作をすると消火する場合があります。

❹ 消　火



●操作ボタンを押して消火する。
●必ず火が消えたことを確認する。

・幼いお子様のいたずらによる火災防止やガス漏れ防止のため、機器から離れるときは念のためお部屋のガス栓を閉め、また点火ロックをしてください。

コ ン ロ

天ぷら油過熱防止機能（標準バーナーのみ）

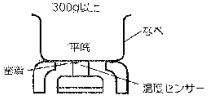
調理油の量

200㎖以上で使用してください。少ないと発火することがあります。

なべ底と温度センサーの密着を確認

なべの重さとのしかた

なべの重さは調理物の重さを含め300ｇ以上必要です。できるだけ底が平らな金属製のなべを使い、なべ底の中心が温度センサー頭部に密着するよう、正しくセットしてください。また、安定性の悪いなべは使用しないでください。



温度センサーに適したなべ

なべなどの種類		油料理	その他料理（無水なべ）	備考
鉄、アルミ製 なべ 天ぷらなべ フライパン		○	○	調理油の量が200㎖以下の場合発火することがあります。
ステンレス、ホーロー製 なべ フライパン		×	○	調理油の量が200㎖以上でも、なべ底の構造や厚み、凹凸によっては、発火する場合があります。
中華なべ 打ち出しなべ		×	○	
耐熱ガラス容器 土なべ		×	○	油料理には適していません。発火する場合がありますので使用しないでください。
無水なべ 圧力なべ 蒸籠なべ	煮水料理		○	調理油の量が200㎖以上でも発火する場合があります。また、無水料理において消火する場合がありますのでチャオバーナーをご使用ください。
	無水料理以外	×	○	
焼網			×	消火したり、トッププレート、しる受皿が変色したりしますので、グリルを使用してください。

○：適する　×：適さない

このような調理には、チャオバーナーをお使いください

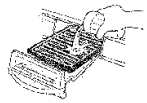
●標準バーナー（天ぷら油過熱防止機能）は、温度センサーがなべのから焼きのような高い温度になったときや冷たくなりすぎる場合、途中で消火することがありますので、次のような調理にはチャオバーナーをお使いください。

・高温になりやすい調理
　焼きもの：お好み焼き・ホイルのつつみ焼き・ポークソテーなど
　炒めもの：ソーセージ炒めなど
　炒りもの：ごま炒り、大豆炒り
・冷たくなりすぎる調理
　冷凍食品：容器ごと煮らせたうどんやそばなどの解凍加熱

グリル

はじめて使用するときはから焼きが必要

工場出荷時の加工油を焼きるためグリル水入れ皿に必ず水(約200mℓ)を入れ、約10分から焼きをしてください。
この時、煙がでますが異常ではありません。



グリル水切れセンサー

グリル水入れ皿に水を入れずに使用した場合や、水の量が少なくなってきた場合に自動消火します。(自動消火するとブザーが鳴って、グリル点火確認ランプが点滅します。)
●グリル水切れセンサーが作動したら、すぐに操作ボタンを押し消火の状態にしてください。再点火するときは、グリル水入れ皿に水を入れしばらくまってから点火操作をしてください。

グリル消し忘れタイマー

消し忘れを防止するために、点火してからの連続使用時間を判断して、約21分たつと自動消火すると同時に、ブザーで「ピー」とお知らせする機能です。

●グリル消し忘れタイマーが作動したら
すぐに操作ボタンを押し消火の状態にしてください。

・調理物(魚など)によっては、グリル消し忘れタイマーが作動する前に発火することがありますので機器から離れないようにし、焼きすぎに注意してください。

グリルお知らせブザー

グリルを点火後、約3分ごとにブザーが「ピピッ」と一回鳴り、グリルを使用中であることをお知らせします。(調理時間の目安としてもお使いいただけます)

グリルで上手に焼くには

グリル焼網の高低

裏表で焼網の高さが変えられます。焼き物の大きさ、種類により高低を選んでください。

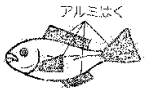
予熱が必要

あらかじめ3～4分予熱しておくときれいに焼きあがります。

つけ焼き・照り焼きなどのこげつきやすいもの、火の通りの悪い身の厚い魚などは、予熱せずに焼いてください。

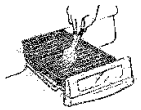
魚の尾やヒレは?

こげやすい魚の尾やヒレはアルミはくで包んだり、薄めに塩をふりかけたりします。



グリル焼網に油

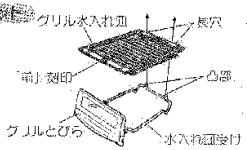
グリル焼網にサラダ油などを塗っておくと、焼き上がり後材料が焼網に付着しにくく取り出しやすくなります。



グリル水入れ皿の出し入れ

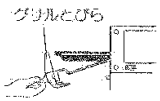
グリル水入れ皿の出し入れ

水入れ皿受けの凸部をグリル水入れ皿の長穴に差し入れてセットします。



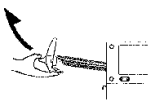
グリルとびら

グリルとびらを止まるところまでいっぱいに引き出すと、グリルとびらだけが下がり、焼き物の出し入れ、確認が簡単に行えます。



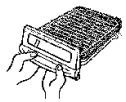
取り出し方法

グリル水入れ皿を取り出すときは、グリルとびらを止まるところまでいっぱいに引き出してから、そのまま持ち上げて取り出します。



持ち運び方法

グリルとびら取っ手を両手でしっかりと持ち、水平にゆっくり持ち運んでください。



使用中に消火したときは

天ぷら油過熱防止機能が作動(標準バーナーのみ)

消し忘れなどによって起こる調理油の異常過熱時に自動消火します。
※消火と同時にブザーが「ピー」と5回鳴ってお知らせします。
●すぐに操作ボタンを押し消火の状態にする。
●再度点火するときは
※なべや油が相当熱くなっていますのでやけどに十分注意して、水を入れたなべや水に浸した布などで温度センサーを冷してから点火する。

グリル水切れセンサーが作動

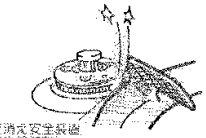
グリル水入れ皿に水を入れずに使用した場合や、水の量が少なくなってきた場合に自動消火します。また、使用中にグリル水入れ皿を長時間引き出したままですと自動消火する場合があります。
※消火と同時にブザーが「ピー」と5回鳴り、グリル点火確認ランプが点滅します。
●すぐ操作ボタンを押し消火の状態にする。
●再度点火するときは
※グリル水入れ皿に水を入れ、しばらく待ってから再度点火する。

グリル消し忘れタイマーが作動

消し忘れを防止するために、点火してからの連続使用時間を判断して、約21分たつと自動消火します。
※消火と同時にブザーが「ピー」と5回鳴り、グリル点火確認ランプが点滅します。
●すぐに操作ボタンを押し消火の状態にする。

立消え安全装置が作動

煮こぼれなどで火が消えると、ガスを自動的に止めます。(ガスが止まるまで少し時間がかかります。)
●すぐに操作ボタンを押し消火の状態にする。
●再度点火するときは
※周囲にガスがなくなったことを確認して、立消え安全装置(炎検知部)の汚れをふきとってから点火する。



・立消え安全装置(炎検知部)に水滴や煮こぼれがつくと、点火しにくくなったりします。水滴や煮こぼれはふきとってください。(P.14参照)
・立消え安全装置(炎検知部)に硬いものをぶつけないでください。まがったり、変形し点火しにくくなったりします。

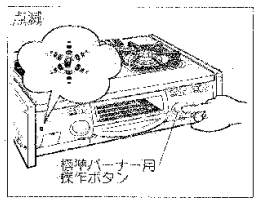
(例:チャオバーナー)

乾電池が消耗(標準バーナー・グリルのみ)

乾電池の容量が全くなくなった場合、自動消火します。
●すぐに操作ボタンを押し消火の状態にする。
●乾電池を交換してください。(P.8参照)

乾電池交換サイン(乾電池の交換時期をランプでお知らせします)

※標準バーナーまたはグリルを使用しているときのみ点滅または点灯します。図は、110-1090型です。
●この機器は天ぷら油過熱防止機能等の制御やグリル点火確認ランプの点灯、グリル消し忘れタイマーなどの制御をするために乾電池を使用しています。
●乾電池の交換時期をお知らせする乾電池交換サイン(ランプ)がついています。
●点滅……新しい乾電池を用意してください。
●点灯……新しい乾電池と交換してください。
乾電池交換サイン(ランプ)が点灯すると標準バーナーとグリルは使用できなくなります。電池交換サイン(ランプ)が点灯したら新しい乾電池と交換してください。
※チャオバーナーは「パチパチ」と放電すれば使用できます。



・乾電池が正しくセットされていなかったり、乾電池の容量が全くなくなったときは、点灯しません。

お手入れのしかた

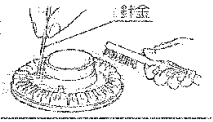
日常の点検

●機器周辺に燃えやすいものが置いてありませんか。
●バーナーキャップ、しる受け皿などは正しくセットされていますか。
●ゴム管の接続は確実ですか。(ガス用ゴム管接続の場合)
●ゴム管は傷んでいませんか。(ガス用ゴム管接続の場合)
●立消え安全装置(炎検知部)・温度センサーが汚れていませんか。
●バーナーの炎口が煮汁などで詰っていませんか。

・点検・お手入れの前には、必ずガス栓を閉めて機器が冷えてから行ってください。
・けがをしないように手袋などをはめて行ってください。
・機器本体に水をかけたり、丸洗いしないでください。

バーナーキャップ

●目詰りしていたら、炎口をブラシや針金などで掃除をする。
●お手入れ後は正しくセットし、正常に燃焼することを確認してください。



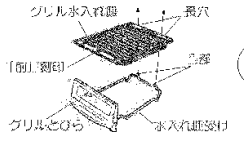
バーナーキャップの表面(黒い部分)を台所用中性洗剤(野菜・食器洗い用)以外の洗剤でお手入れすると黒い部分がはがれることがあります。万一はがれた場合でもそのままご使用いただいても問題ありません。

グリル水入れ皿・グリルとびら・グリル排気口カバー

●使用後そのつど台所用中性洗剤(野菜・食器洗い用)を含ませたスポンジたわしでお手入れをする。(取り外してお手入れができます。)

●グリル水入れ皿の取り付け

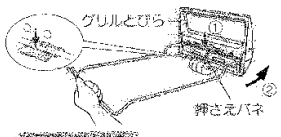
水入れ皿受けの凸部をグリル水入れ皿の長穴に確実にいれる。



●グリルとびらの取り外し・取り付け

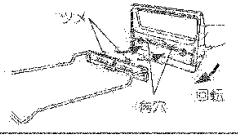
取り外し方

1.押さえバネを↓①の方向に下げる。
2.グリルとびらを↗②の方向にたおす。



取り付け方

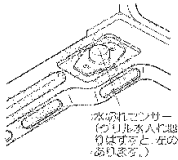
1.水入れ皿受けのツメ2ヵ所をグリルとびらの角穴にはめ込む。
2.↙の方向にグリルとびらを回転させる。
押さえバネが水入れ皿受けに確実に収まっているか確認する。



・グリル水入れ皿は汚れたまま使用しますと、こびりついた脂汚れがとれにくくなりシミが残ったり、発火することがあります。
・押さえバネには必要以上に力を加えないで下さい。変形してグリルとびらが正しく取り付けられなくなることがあります。

グリル水切れセンサー

●水切れセンサーの穴部についた焦やゴミは水に浸し固くしぼった布でふきとってください。
(グリル庫内左奥)



グリルとびらガラス

※汚れたらそのつどやわらかい布でふき、お手入れをする。
汚れが落ちにくいときは、台所用中性洗剤(野菜・食器洗い用)で汚れた部分を浸せておき、水を含んだ布でふきとる。

・みがき粉・硬いものでお手入れをすると、ガラスに傷がつき割れる原因となりますので使用しないでください。

バーナーキャップ

グリル網
グリル水入れ皿
水入れ皿受け
グリルとびら

グリル排気口カバー
しる受け皿
ごとく

使ってよいもの

使ってはいけないもの

機器表面

●台所用中性洗剤(野菜・食器洗い用)を含ませたスポンジたわし・やわらかい布でふき、お手入れ後は乾いた布で水気をふきとる。

・スプレー式洗剤は使用しないでください。機器前面などから内部へ洗剤が入りますと電子基板の誤作動や部品の腐食などにより機器が損傷する場合があります。

ごとく・しる受け皿

●使用後そのつど台所用中性洗剤(野菜・食器洗い用)を含ませたスポンジたわしでお手入れをする。

こげつき等により、特に汚れが落ちにくい場合

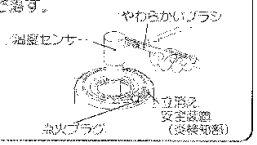
●スポンジやナイロンたわしにみがき粉やクレンザー(研磨材入り洗剤)をつけてお手入れした後、洗剤をしっかり洗い流し、水気をふきとる。
●ナイロンたわし・みがき粉・クレンザーは基本的に使ってはいけないものです。もし、使う場合は下記の内容をご確認しお守りください。

・クレンザーやみがき粉には研磨材が配合されていますので、ごとく表面に多少のこすり傷がつくことがあります。また洗剤の液性はアルカリ性ですので、洗剤を十分に洗い流し、水気をふきとってください。洗剤が残っていると錆の発生の原因になります。
・硬いものでお手入れすると、ごとく表面のホーローがかけたりしますので使用しないでください。

立消え安全装置(炎検知部)・点火プラグ・温度センサー

●煮汁やごみをやわらかい歯ブラシなどで落す。

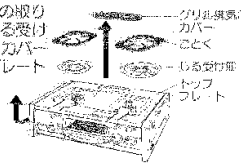
・硬いブラシでお手入れしたり、立消え安全装置(炎検知部)・点火プラグ・温度センサーを傷けたりしないでください。点火不良や立消えの原因になります。



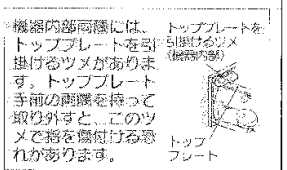
トッププレート

●汚れたらそのつどやわらかい布でふき、お手入れをする。汚れたまま放置するとシミがのこる原因となります。
・汚れが落ちにくいときは、台所用中性洗剤(野菜・食器洗い用)で汚れた部分を浸せておき、水を含んだ布でふきとる。

トッププレートの取り外しは、ごとく、しる受け皿、グリル排気口カバーを外し、トッププレートのしる受け皿用の穴を図の様に両手で持って、手前に引きながら上に持ち上げてください。



機器内部両側には、トッププレートを引掛けるツメがあります。トッププレート手前の両端を持って取り外すと、このツメで指を傷付ける恐れがあります。



・トッププレートを台所用中性洗剤(野菜・食器洗い用)以外の洗剤やみがき粉・硬いものでお手入れをすると、トッププレートの表面のホーローがかけたり、シミ・変色の原因となりますので使用しないでください。
・トッププレートには安全に関する注意ラベルが張り付けてあります。汚れたり読めなくなったときはやわらかい布などで汚れをふきとってください。また、お手入れの際にははがれないようにご注意ください。
もしはがれたり読めなくなった場合は、お買い求めの販売店、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガスで新しいラベルを再購入のうえ、張り替えてください。

長期間使用しない場合

●お部屋のガス栓を必ず閉めてください。
●乾電池を外しておく。
●お手入れをしておくと、次回使用するときに便利です。

故障かな？と思ったら

⚠警告 ■使用中に異常を感じたときはすぐに使用を中止する
あわてずガス栓を閉めてください。 ガス栓を閉める

調べてみると故障でない場合がよくあります。修理を依頼する前に、もう一度チェックしてください。

症状		原因	対策	ページ
点火しない 点火しにくい 点火してもすぐ消える		ガス栓（中間コック）の閉き忘れ	ガス栓（中間コック）を全開にしてください。	P.11
		バーナーキャップの取付に不良	浮き、傾きのないように正しくセットしてください。	P.8
		しる受け皿の取付け不良	正しくセットしてください。	P.8
		アルミはく製しる受け皿を使用している	アルミはく製しる受け皿を使用しないでください。	P.3
		乾電池が入っていない、または正しくセットされていない	⊕、⊖を確認して正しくセットしてください。	P.8
		乾電池が消耗している	新しい乾電池と交換してください。	P.8・14
		バーナーキャップの炎口部が水滴でふさがっている	炎口部の水滴をふきとってください。	P.6
		点火プラグ・立消え安全装置（炎検知部）がぬれたり、汚れたりしている	点火プラグ・立消え安全装置（炎検知部）のお手入れをしてください。	P.16
		操作ボタンの押し不十分	操作ボタンを確実に押し、数秒間押し続けてください。	P.11
		ゴム管の中に空気が残っている（ガス用ゴム管・ガスコード接続の場合）	点火操作を繰り返してください。 ※はじめての場合は点火するまでしばらく時間がかかります。	P.18
		バーナーキャップの炎口づまり	炎口を掃除してください。	P.15
		ゴム管の折れ曲がり、つぶれ（ガス用ゴム管・ガスコード接続の場合）	ゴム管の折れ曲がり、つぶれを直してください。	P.10
火が安定しない 異常な音がしてて炎が揺れ出した時に点火する なべへガスが届かない 使用中、消えやすい		バーナーキャップの取付け不良	浮き、傾きのないように正しくセットしてください。	P.8
		バーナーキャップの炎口づまり	炎口を掃除してください。	P.15
		立消え安全装置（炎検知部）がぬれたり、汚れたりしている	立消え安全装置（炎検知部）のお手入れをしてください。	P.16
		ガス用ゴム管がひび割れたり、穴があいている（ガス用ゴム管接続の場合）	ガス栓を閉め、新しいガス用ゴム管と交換してください。	P.4
ガスの臭いがする		ガス用ゴム管・ガスコードが確実に接続されていない（ガス用ゴム管・ガスコード接続の場合）	ガス用ゴム管・ガスコードを確実に接続してください。	P.10
		使用なべの形状、材質が適していない	温度センサーに適したなべを使用してください。	P.12
標準バーナー（高速バーナー）付き使用中 ・なべ底や温度センサーの頭部の汚れが原因で温度センサーが作動しない ・調理途中に自動的に火が消える ・調理途中なべが焦げる ・煙が出たらすぐ消える		なべ底や温度センサーの頭部の汚れ	なべ底や温度センサーを掃除してください。	P.16
		なべ底が凹凸している	底が平らな金属製のなべにしてください。	P.7・12
		なべが傾いたり、油の温度が高くなっている	水を入れたなべや水に浸した布などで温度センサーを冷やしてください。	P.14
		乾電池が入っていない、または正しくセットされていない	⊕、⊖を確認して正しくセットしてください。	P.8
		乾電池が消耗している	新しい乾電池と交換してください。	P.8・14
鍋に入れた揚げ物が焦げる	揚げ物バーナー	差し忘れタイマーの作動（グリル約21分）	続けて使用する場合は、再点火してください。	P.13・14
		天ぷら油過熱防止機能作動（標準バーナー）	続けて使用する場合は、やけどに注意して再点火してください。	P.14
		差し忘れタイマーの作動（グリル約21分）	続けて使用する場合は、再点火してください。	P.13・14
ブザー音	ピー（高音）	標準バーナー・グリル使用中の立消え安全装置が作動	「立消え安全装置が作動」を参照してください。	P.14
		グリルの水切れセンサーが作動	グリル水入れ皿に水を入れ、しばらく待ってから点火してください。	P.13・14
	ピーピー（連続）	温度センサーまたは電子ユニットの故障	ガス栓を閉め、使用を中止し、点検・修理を依頼してください。	—

なお、異常のあるときやおわかりにならないときは、お買い求めの販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。不完全な処置は事故のもとになります。

●はじめてグリルを使用しますとグリル内の加工油が焼けて煙がでますが異常ではありません。約10分から焼きをしてください。

こんなときは異常ではありません。	
点火しにくい	朝一番で使用するときやはじめて使用するときは、ゴム管内に空気が入っていて点火しにくいことがあります。点火操作を繰り返してください。
点火・消火の時、音がする	点火時・消火時に「ボン」という音がすることがありますが、これは点火音・消火音で異常ではありません。（消火時にはしばらくしてから音がする場合もあります。）
炎が赤い	グリル使用時にコンロを使用すると焼き物の塩分（ナトリウム）や水中に溶解しているカルシウムなどが燃焼して炎が赤くなることがありますが異常ではありません。また加湿器を使用している場合にも同様に水分中のカルシウムにより炎が赤くなることがあります。
使用中「シャー」という音がする	燃焼に必要な空気が通過する音で、異常ではありません。
点火後や消火後にキシミ音がでる	加熱や冷却される際に、金属が膨張・収縮して起こる音です。
バーナー本体（ステンレス製）が変色する	炎の熱や煮こぼれにより、バーナー本体が変色することがありますが、使用上問題ありません。

アフターサービス

サービスのお申しこみ

・サービス（点検・修理）を依頼される前に、「故障かな？と思ったら」（P.17・19）を見て、もう一度ご確認ください。それでもなお異常のある場合は、ご自分で修理なさらないでお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガスへご連絡ください。
・ご連絡の際には次のことをお知らせください。
1．品名…ガステーブルコンロ
2．品番…JGAコード…本体の右側面に張り付けしてあります。
3．故障、異常の現象…できるだけ詳しく
4．お客様名、住所、電話番号

例
N 110-1090 U ←品番
大阪ガス株式会社
21-080-01-00149 ←JGAコード

保証・補修について

・保証期間中は…
保証書に記載のように、機器の故障について修理いたします。詳しくは、保証書をご覧ください。
保証書を紛失されますと、無料期間中であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。
・保証期間経過後の故障修理について
お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガスにご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。この製品の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造打切後6年間です。但し、保有期間の経過後であっても補修用性能部品の在庫がある場合は、有料修理いたします。
本製品は家庭用ですので業務用にお使いの場合、無料期間中であっても有料修理となる場合があります。

転居されるとき

・ガスには都市ガス、およびＬＰガスの区分があります。
ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類をご確認の上、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガスにご相談ください。
この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。
ただし、ガスの種類によっては調整できない場合もあります。

大阪ガス

ペアフリー型テーブルコンロ設置工事説明書

適用機器 **110-1090型** **110-1091型**

型式の呼び RSU-470CS-L RSU-470CS-R

◆工事をされる方へのお願い

- この機器を安全に正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された工事をおこなってください。
- 設置工事が終わったら 6 設置工事後の点検確認 のチェックリストにもとづいて、必ず再確認してください。
- ペアフリー型下部ユニット（ペアフリー型コンビネーションレンジ、コンベック、オーブン、専用台）と接続の場合は、専用メタルホース（別売部品）に付属の接続方法説明書に基づき工事をおこなってください。

1 安全に正しく設置工事していただくために
2 設置前のご注意
3 設置場所の確認
4 同梱部品の確認
5 機器の設置・ガス接続工事
6 設置工事後の点検確認
7 試点火および試運転

1 安全に正しく設置工事していただくために

機器を安全に正しく設置工事していただくためや、設置工事作業者や使用者への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの説明書では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について次のような意味があります。

一般的な警告 注意

一般的な禁止

必ず行う

分解禁止

特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください。

⚠警告

■設置工事は必ず、この「設置工事説明書」と「ガス機器の設置基準及び実務指針」(日本ガス機器検査協会刊)に従う

変則的な設置工事をすると事故や火災の原因となります。

確認

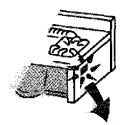
■この機器を安全に正しくご使用いただくために、この「設置工事説明書」をよく読み、指定された工事を行う

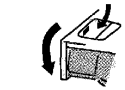
確認

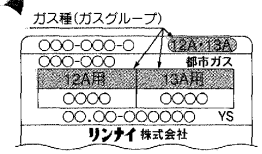
⚠注意

■設置する機器が使用するガスの種類（ガスグループ）に適合していることを銘板で確認する

合っていない場合そのまま使用すると火災や不完全燃焼により、一酸化炭素中毒になったり、爆発着火でやけどしたりすることがあります。また故障の原因にもなります。銘板は機器の本体右側面及び左コンロ用のしる受け皿をとった機器内部左側面に張ってあります。



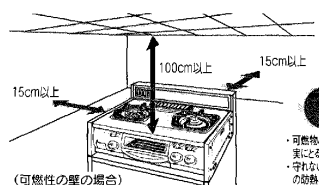

ガス種を確認



<例>
(12A・13Aの場合)

■設置するときは可燃物との距離を確実に離す

火災予防条例で定められています。必ず守ってください。距離が近いと火災の原因になります。また可燃性の壁にステンレス板などを、直接取り付けてご使用になっても、熱伝導で長年の間に可燃物が炭化し火災になることがあります。



(可燃性の壁の場合)

・可燃物との距離を確実にとる(左図参照)
・守れない場合は別売の防熱板を取り付ける

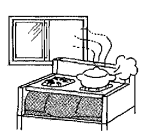
■ガス接続には専門の資格・技術が必要です

接続工事は必ず有資格者がおこなってください。

確認

■換気について

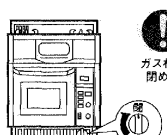
この機器には換気が必要です。



確認

■設置工事後、長期間ご使用にならないときはガス栓（中間コック）を閉める

ガス事故防止のため必ずおこなってください。



ガス栓を閉める

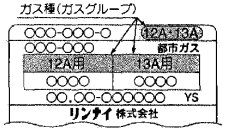
■機器に手を加えない

設置工事で必要なところ以外は絶対に分解したり修理・改造はおこなわない。
ガス漏れや火災の原因になる恐れがあります。

分解禁止

2 設置前のご注意

●型式の呼び・ガス種・製造年月は、機器右側面及び機器内部左側面の銘板に表示してあります。
●機器銘板のガス種（ガスグループ）と供給ガスが合っているか確認します。
●輸送のため各部分にあて紙や包装部材がありますので全部取り除いてください。

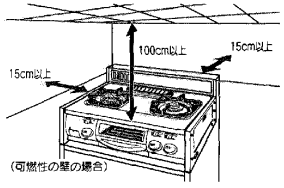


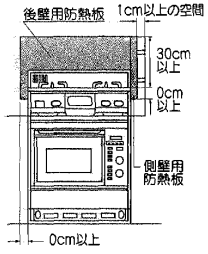
<例>銘板(12A・13Aの場合)

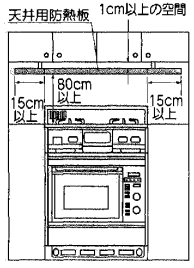
3 設置場所の確認

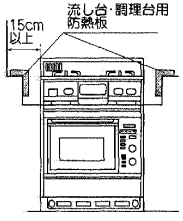
●この機器は、主にペアフリー型下部ユニット（ペアフリー型コンビネーションレンジ、コンベック、オーブン、専用台）と組み合わせて、一体型ガスレンジとして使用されるように、ゴム管接続用のホースエンドは付いていません。

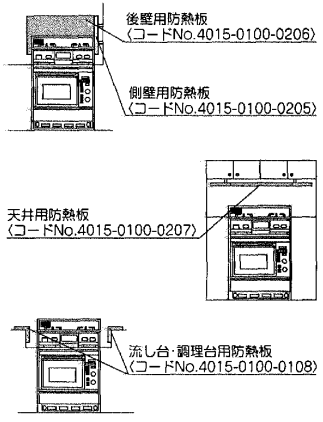
●強い風の吹き込まない場所・丈夫で水平な場所
●付近にカーテンなど燃えやすいものがない場所
●機器の上に湯沸し器のない場所
●機器を使用した場合ガス栓が加熱されない場所
●落下物の危険のない場所
●機器の上に樹脂製の照明器具のない場所
●周囲に可燃物（木製の壁・モルタル、タイル、ステンレスなどを張り付けた壁・たなど）のある場合
・トッププレートより上の側面および後面は15cm以上、上部はトッププレート上面より100cm以上離す。
・上記の距離がとれてない場合は壁面に別売の防熱板を取り付けて設置する。











・防熱板についてはお買い上げの販売店、大阪ガスサービスショップ、大阪ガス支社でお求めください。
・別売の指定の防熱板を必ずご使用ください。

⚠注意

確認

●設置場所を決めるときは、お客様とよく相談してください。
■燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や火災予防条例に定める防火措置を施す必要があります。
■この機器を設置される台所が、建築基準法に定める（内装制限を受ける調理室）に該当する場合は台所全体についても内装材の制限を受けます。
●水平で安定した場所に設置してください。
●指定の防熱板以外は絶対に使用しないでください。
●車両・船舶には設置しないでください。
●排気口をステンレスの水切りカバー（水返しカバー）などでふさがないでください。
●十分に換気のできるところに、設置してください。
●水のかかるところには設置しないでください。
●機器のまわりや上に、スプレー缶・プラスチック・油・紙類などを置かないようにしてください。
●棚の下など落下物の危険のある所には、設置しないでください。
●湯沸器や樹脂製の照明器具の下へ設置しないでください。
●強い風が吹き込む場所や機器本体後方から風が吹き込む場所には設置しないでください。
（点火しなかったり、温度センサーや立消え安全装置が正しく働かないことがあります）

お願い
●本体をタイルやモルタルで、塗り込まないでください。
●耐久性などの点から、できるだけ湿気の少ないところを選んでください。

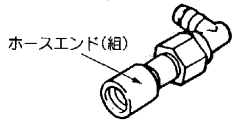
4 同梱部品の確認

部品に不足がないことを確認する

部品名	単1形乾電池	取扱説明書	設置工事説明書	保証書
形状				

別売部品の確認

本機器にガス用ゴム管接続する場合には別売のホースエンド（組）が必要です。



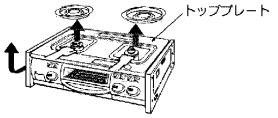
（コードNo.4015-0100-0130）

5 機器の設置・ガス接続工事

1．トッププレートの取り外し

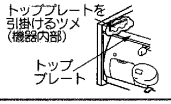
ガス接続工事を行うために、次の様にトッププレートを取り外します。

トッププレートのしる受け皿用の穴を図の様に両手で持って、手前に引きながら上に持ち上げてください。



⚠注意

機器内部両隅にはトッププレートを引掛けるツメがあります。
トッププレート手前の両隅を持って取り外すと、このツメで指を傷付ける恐れがあります。



2．機器の設置・ガス接続工事

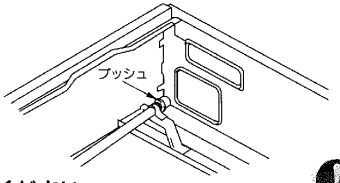
⚠注意

■ガス接続には専門の資格・技術が必要です

接続工事は必ず有資格者がおこなってください。
接続の際はガスシール材を必ずご使用ください。
接続終了後、ガス漏れのないことを確認してください。

■機器に初めから付いているブッシュは取り外さないでください

図のブッシュは、ペアフリー型下部ユニットとの接続、ホースエンドとの接続の両方に必要なものです。
（専用メタルホースに付属しているブッシュとは別物です。）



■ガス栓がない場合はガス事業者にご相談ください

確認

この機器へのガス接続はガス栓が必ず必要です。

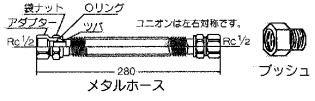
(1) ペアフリー型下部ユニットとのドッキングの場合

＜使用工具＞プラスドライバー、マイナスドライバー、21六角スパナ、モンキーレンチなど専用メタルホース（別売部品）に付属の接続方法説明書に基づき工事をおこなってください。

⚠注意

■ガス接続に必要な以下の部品は専用別売部品です

接続管の形状は、レンジにより異なる場合があります。



・図のブッシュは、本機器（ガステーブル）に初めから付いているブッシュに接続してください。

■モンキーレンチを使用する場合は長さ300mm以下を使用してください

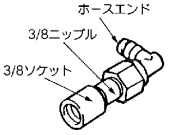
確認

パイプレンチや大きいモンキーレンチで強く締めるとブッシュが割れることがあります。

(2) ガス用ゴム管接続をする場合＜使用工具＞21六角スパナ、モンキーレンチ

本機器には脚が付いていますので、別売のホースエンド（組）を取り付ければ、一般のガステーブルとして、ガス用ゴム管接続で使用できます。

別売のホースエンド（組）
（コードNo.4015-0100-0130）



・本機器に初めから付いているブッシュに3/8ソケット部を接続してください。締め付けは、21六角スパナでホースエンドの六角部を締めてください。

⚠注意

■モンキーレンチを使用する場合は長さ300mm以下を使用してください

確認

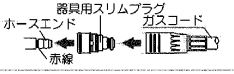
パイプレンチや大きいモンキーレンチで強く締めるとホースエンドが割れることがあります。

■ゴム管はホースエンドおよびガス栓の赤線まで確実に差し込みゴム管止めで止める

ゴム管が抜け、ガス中毒やガス爆発の原因になります。

■ガスコードを使用する場合は、器具用スリムプラグおよびガスコードの取扱説明書に従って接続する

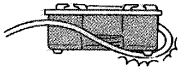
間違った接続はガス漏れの原因になります。



確認

■ゴム管は機器に触れたり、下を通したり、グリル排気口や炎に近づけない　また他の機器で加熱されるような所も通さない

使用時は周囲が高温になりゴム管がとけてガス漏れをおこすことがあります。



禁止

■内径9.5mmφのガス用ゴム管（ソフトコード）以外は使わない　ひび割れたゴム管、古いゴム管は使わない

ガス漏れの原因となります。ゴム管はJISまたは検査合格マークの入ったものを使用してください。ビニール管は絶対に使わないでください。ときどき点検して古くなった場合は取り替えてください。

禁止

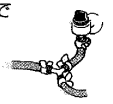
■ガスコードの長さが合わない為に高温部に触れたり、機器の下を通したり、機器に触れたりする場合はガスコードを使用しない

ガスコードが過熱され、ガス漏れの原因になります。

禁止

■ゴム管の継ぎたし、二又分岐はしない

ガス漏れや使用誤りなどで危険な場合があります。



禁止

⚠警告

■レンジとドッキングした場合は、ガス用ゴム管接続はしないでください

レンジの排気熱やムリな引き回しによるガス用ゴム管の劣化、接続部分からのガス漏れなど、危険ですのでしないでください。

禁止

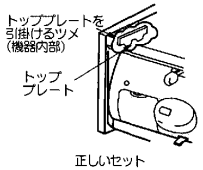
3．部品の取り付け

(1) トッププレート

手前を少し持ち上げて後ろ側からのせます。

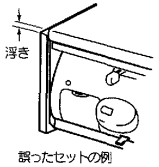
⚠注意

トッププレートは確実に取り付けてください。
バーナーの炎がトッププレートの下にもぐり込み、火災や機器焼損の原因になります。
機器内部両隅にトッププレートを引掛けるツメがあります。取り付けるときは、トッププレート手前の両隅を上から軽く押え付け、浮きのないようにしてください。



正しいセット

確認

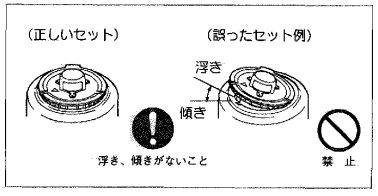


誤ったセットの例

禁止

(2) バーナーキャップ

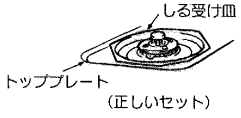
「オク」印を奥側にして、バーナーキャップの凸部をバーナー本体の凹部に正しくはめ込み、必ず正常に燃焼していることを確認する。
※バーナーキャップが浮いたり傾いたりしていると点火不良や炎が不ぞろいになったり異常燃焼などが起こる場合もあります。



(3) しる受け皿

浮き、傾きのないようにセットしてください。

左右共通です



(正しいセット)

炎がしる受け皿に接触しないことを確認

(誤ったセットの例)

浮き、傾き禁止

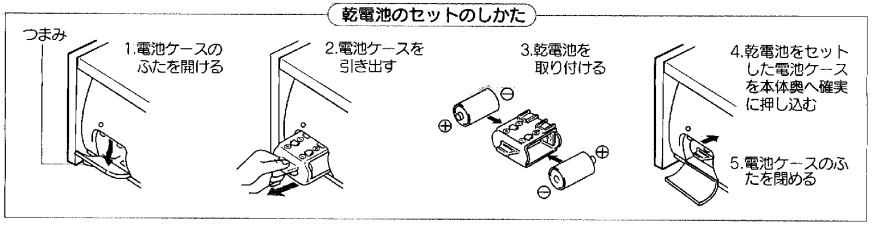
(4) ごとく・グリルガード

ごとくは裏側のツメをトッププレートの穴に合わせてセットします。

(5) 単1形乾電池・2個（付属品）

電池ケースはコンロ前面の左側にあります。つまみを下げながら引くとふたが開き、ケースが取り出せます。⊕と⊖を確認して、しっかりと乾電池を入れてケースを機器本体に確実に差し込んでください。ケースのふたは、必ず閉めてください。

乾電池のセットのしかた



6 設置工事後の点検確認

●チェックリストにもとづいて確認してください。

点検項目		点検内容	参照項目	チェック
機器およびその周辺	ガス種	機器が使用するガス種に適合しているか。(銘板確認)	2	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置はじゅうぶんか。	3	
	水平設置	水平にセットされているか。	3	
	安定設置	ガタツキはないか。	3	
	換気設備	じゅうぶん換気できる場所に設置されているか。	3	
ガス接続工事		ガス漏れはないか。	5	
ラベル張付け		接続具の施工者ラベルおよび連絡先のステッカーを張付けしたか。		
その他		グリル庫内に同梱物が残っていないか。		

7 試点火および試運転

■試点火および試運転

正しく設置工事されていることを確認してからガス栓（中間コック）を開き取扱説明書に基づき、試運転をおこなってください。

■試運転終了後の処置

試運転終了後長期間使用しない場合は、ガス栓（中間コック）を閉め、乾電池をはずしてください。

■お客様への説明

取扱説明書によって機器の取扱いを説明してください。
保証書に必要事項を記入のうえ、保証内容を説明してください。また、取扱説明書とともに保管のお願いをしてください。